

発会式

令和元年（2019年）11月23日アルカディア市ヶ谷私学会館「伊吹」にてNPO法人マルイチライフ・サポートスクウェアの発会式が開かれた。発会式とセミナーは13時～15時30分まで、その後、祝賀会が行われた。

報道関係者含め、参加者48名を迎え、中村理事長の開会の辞でスタートし、吉川副理事長の進行で次第が進められた。次に中村理事長から、これからの目的・目標・指針の説明が行われ、参議院議長 山東昭子様からの手書きのメッセージが会場の皆様宛てに紹介され、激励と共に勇気を与えて下さるお言葉が贈られた。ステージ上には女優の司葉子様がお贈り下さったお祝い花が会場を華やかに優しく包んで下さっていた。



中村理事長より、20年前に「バツイチをマルイチに」を合言葉に集結したマルイチ会の歩みと、その活動が認められ今回NPO法人マルイチライフ・サポートスクウェアとして出発すること、またこれからについての説明が配布資料をもとに行われた。



中村理事長：私たちはシングルライフの質の向上（QOL）を目指します。例えば、離婚後の生活上・経済上の問題点につき相互に語り合い先輩や専門家からアドバイスを受ける場や、離婚後の子供の養育、教育についても先輩や専門家からのアドバイスを受ける機会を設けていきます。また、子供たちのために奨学金、養育費の支給、支援をしていきます。離婚シングルのみならず、シングルアゲイン（配偶者を亡くされた方）、かぐや姫（未婚シングルの方）など、広くシングルで生きる方のお悩みにこたえていきます。更にシングルで高齢社会を生きるため、お金や資産管理を勉強していきます。互いにサポートしあい、よりよい社会を目指して活動していきます。

セミナー

13時25分から14時20分までは、八百理事がコーディネーターとなり「あれからを振り返って」をテーマにディスカッションが行われた。



左から、コーディネーターの八百理事、パネリストはメンバーの伊藤氏、稲葉氏、川崎氏、佐野氏、長沼氏 20年の歩みの中で苦勞を乗り越えながら自立してきた皆様。

八百理事：ディスカッションを聞いてくださる皆様に、シングルライフの素敵な送り方、高齢者会をよりよく生きるためのヒント、苦しみから脱却し明るく前向きに行けるマルイチメンバー5名からのメッセージを届けたい。

伊藤氏：21年前に離婚したお金をもとに、多くの資格を取得した。介護福祉士から始まり、ケアマネージャー（介護支援専門員）、そして施設の管理者をした。

稲葉：DVといった言葉がない時代に、夫からDVを受けていた。同僚に勧められたアメリカのDVの本を読み、専門機関に相談に行った。「DVを受けるのは自分が原因だと思っているあなたが問題だ」と言われ、20年前に離婚に踏み切った。当時、娘の高校受験も重なり大変な思いをしたが、マルイチ会の仲間に支えられ、イニシエーションスピーチで励まされ、自信がついた。

川崎氏：離婚して17年ほど経つ。離婚当時は専業主婦であったため不安もあったが、まずは勉強を始めた。専門学校に通い、家事育児、パートの仕事をしながら税理士の資格を取得し現在個人事務所を経営している。大変だったからこそ、頑張れたと思う。そしてマルイチ会メンバー他、様々な方に支えられて今があると思う。

佐野氏：離婚して7年目。震災時、夫に女性がいることが分かり離婚した。子供は息子が三人で、当時、上二人は高3と中3の受験生、下は小4であり今後が心配だったが、普段と変わらない接し方に努めた。勤めていた会社は離婚後も続けた。大学では資格を取らずに卒業したが、離婚した後で資格が活かしている人がいることを聞き、資格の大切さを知った。近々定年退職を迎えるが、今後は本当にやりたいことを仕事にしたいと資格取得に向け勉強をしている。

長沼氏：マルイチになり13年。12年専業主婦をしていた。離婚当時、二人の娘は小4（10歳）と小1（7歳）だったが、実家には戻らず保健師の資格でどうにかなるだろうと思った。資格を活かし、ある会社に就職した。派遣社員として半年勤め、その後、正職員そして管理職となった。その間、帰宅の遅い自分に、次女から「お帰りと言ってほしい」と仕事を辞めると言われ胸が痛んだこともある。体調を崩して12年勤めた会社は辞めたが、50歳過ぎでの就活でまた保健師の資格が活かされ再就職が出来た。もともと親に勧められた資格だが、生きる手段となり親に感謝している。

その他、今後どのように過ごしていきたいか等のディスカッションが行われた。

吉川副理事長より、利害関係のない友を、仲間を持つことが大切であるとの話でディスカッションが終わり、引き続き10年前に出版されたマルイチ会メンバーの手記『イニシエーションスピーチ集 離婚女性たちのQOL向上宣言 バツイチなんて言わせない』の紹介の後、14時20分から15時10分まで女優の五十嵐めぐみさん、役者の坂西良太さんに手記の中より3編を朗読いただいた。



左から役者の坂西良太さん、女優の五十嵐めぐみさん
お二人による臨場感あふれる朗読に、会場からすすり泣く声も聞こえてきた。
朗読後、お二人よりNPO法人出発に対する応援の言葉を頂いた。



朗読の後、中村理事長よりお礼の言葉
中村理事長：憧れの方と、マルイチライフ・サポートスクウェアの出発を一緒に祝っていただき有難うございます。素晴らしい朗読で、ドラマの中に入ってしまったようでした。今後もお力を貸していただき、一緒に活動していただければと思います。有難うございました。

朗読の後、吉川副理事長より、これまで膝を突き合わせて話をする事が出来なかったお子さんたちが、今回勇気を持ってお話下さるということで、マルイチ会員のお子さんの長沼さんと小黑さんが紹介された。15時10分から15時30分までお二人に子供たちの声として話をさせていただいた。



左から長沼さん、小黒さん

両親の離婚に気が付いた時のこと、悲しかったこと辛かったこと、姉妹との関係など話をしていただいた。

吉川副理事長：お子さんたちから話を聞く第一歩となりました。今後も、子供たちを含めて支えあっていく会にしていきたいと思っています。



お子さんたちのお話の後、中村理事長よりお礼の言葉

中村理事長：お子さんは宝です。皆で協力して育ていこうと思ってきました。どうぞ、同じような思いをした人たちのリーダーになって頂きたい。若い息吹を会に吹き込んでほしいと思います。有難うございました。



吉川副理事長より、前回のフォーラムではパネラーとしてご参加下さったかぐや姫、パフォーマー&レーサーとして活躍された岡安由美子さんが紹介され、仲間として一緒に生きていきたいとの感想を頂いた。

中村理事長：私共マルイチ会は手作りのささやかな会でしたが、NPO 法人となりましたので、地位や立場が人を作るように、会が私たちに大きく成長させてくれると思います。仲間になりたい、なってみようと思った方がいらっしやいましたら、この機に入会していただければと思います。今日は有難うございました。

※受付では、これまでのマルイチ会の活動や取組を紹介するパネル展示や、著書の販売、寄付受付も行われ、参加者に NPO 法人化の盛り上がりを実感していただくうえで効果的であった。



メンバーと共にいつもこの会を応援してくれる美しいお二人が受付を手伝ってくれました。



※配布資料について、「マルイチ会 20年の歩み」と題し 20年の実績と歴史、活動など 4枚にまとめたパンフレットと、法人のコンセプトが掲載されたホームページ画面を印刷したものを発会式で参加者の方々に配布した。ホームページについて、今後も活動状況を随時掲載するなど内容を充実させ、会 PR や会員勧誘に活用していく予定である。

◆HP アドレス <http://www.npo-maruichi.com>

◆マルイチ会専用メールアドレス walnut@npo-maruichi.com

